

第2学年 学力向上のための学習指導案(国語科)

日時 平成29年1月20日(金) 第6校時

場所 2年A組教室

1. 前回の研究を受けて

前回の市川教諭の算数科の授業では、学習リーダーを中心に、導入部分から子どもたち自身に考えさせる工夫がなされており、1つの問題に対して、前時までの学習をもとに全体で練り合いながら進められた授業であった。また課題やまとめ、分からない時はすぐに班活動を取り入れており、そのことによって自分の考えを相手に伝え合う場面が多くなり、全員の理解が深まるような授業になっていた。そこで今回の授業では、ペア活動で、自分の考えを伝え合う活動を取り入れ、全体の練り合いの中で児童が想像を広げながら考えることができるように、発問や児童の発言の切り返す場面を大切にしながら理解を深めることができるようにしていく。

2. 単元名 心がじいんとしたことを、友だちや家族に紹介しよう！

～「スーホの白い馬」(光村図書 2年下)～

3. 単元の目標

◎場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。

○物語から心に残った文や文章を書き抜き、自分の経験と結び付けて、感想をまとめることができる。

○複合語の語感や意味の違いに気づくことができる。

4. 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・想像を広げて読むことの楽しさに気づき、物語を読もうとしている。	・登場人物の行動から、場面の様子を想像して読んでいる。(1)ウ ・物語を読んで心に強く残ったことを書き抜き、感想をまとめている。C(1)エ・オ	・複合語の語感や意味の違いに気づくことができる。イ・(ウ)

5. 単元設定の理由

(1) 指導要領を受けて

低学年のC読むこと(1)の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」である。読むことについては、「説明的な文章や文学的な文章など、それぞれの本や文章の内容や構成の特徴などに着目して読んでいく能力」を示している。文学的な絵本や物語など、場面展開が明確な本や文章では、場面の様子を推さえながら想像を広げて読むことを求めている。また、読書に親しみ、読書を通して生活を豊かにすることを目指したものである。

児童はこれまでに、「スイミー」、「お手紙」、「わたしはおねえさん」という物語文を人物の行動や会話を中心に捉え、想像を広げながら読むことを学習してきた。本教材は、今まで学習してきたどの作品よ

りも長文であり、起伏に富んだ物語であるが、一つ一つの場面が魅力的であり、人物どうしの関係性の中で心情を理解する読み方を学ぶのに適した教材であると考え。また、「なぜそのように読み取ったのか」、「どの叙述からそのように考えたのか」という「わけ」を考えさせることで想像を広げながら読み深めることのできる教材である。

単元の指導にあたって、まず絵本の読み聞かせから心に強く残ったところや心に強く響いたところを話し合い、その時の気持ちが心がじいんとした気持ちであることをつかませたい。そして心がじいんとした気持ちについて児童同士で共通理解ができたところで本教材へと移っていく。本教材では、最初に全文を読んであらすじをつかみ初発の感想を書く。そのあと、それぞれの場面を読み深めながら、「スーホ」の気持ちを中心に「白馬」や「とのさま」との関係の中で「スーホ」と「白馬」の心のつながりに焦点をあてていく。場面ごとに「なぜそのように読み取ったのか」というわけについて本文に立ち返りながら考えを進めていく。読み深める中で、初発の感想の時の考えが変化したり考えが深まったりするように発問や切り返しを工夫していきたい。単元の最後には、自分で読んだ本の中から心がじいんとする話を選び、友だちや家族に紹介する活動を取り入れていきたい。

本時は、「白馬」を思い願う「スーホ」の気持ちを考えることを通して、「スーホ」の白馬への思いに気づくことをねらいとしている。一人学びでは、白馬がスーホのところに帰ってきた場面でスーホの言動から白馬に対する思いを捉えさせ、なぜそう思ったのか理由を考えさせたい。また、自分の考えを伝え合う活動を大切にするためにペア学習を取り入れる。全体での共有では、抜き出した文から一番スーホの気持ちが表れているところを考えさせることで、どんなことがあっても生きてほしいと思い願うスーホの気持ちをより深く考えたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、明るく活発で、学習にも意欲的に取り組む。また読書が好きな児童が多く、ちょっとした時間に読書をするように伝えるとうれしそうにかつ集中して読んでいる。休み時間には、図書室に本を借りに行く児童が多くみられる。国語の授業の「わたしはおねえさん」では、人物の行動や会話を中心に場面の様子を想像しながら自分の経験と照らし合わせながら考えることができていた。

しかし、児童の学校生活の様子から相手の立場に立って物事を考えることや日ごろの言動からはまだまだ自己中心的な部分があり、友達と助け合うことのよさに気付いている児童が少ない。だから「スーホ」と「白馬」の絆や深い愛情について想像を広げながら読み深め、心がじいんとするような体験をさせることで、人を思う気持ちを少しでも多く感じられるように授業を進めたい。

(3) 研究主題との関連

『主体的・協働的な学びを通して、練り合いが深まる授業指導の実践』という研究主題を受け、国語科においても問題解決的な学習を行うようにしている。必ず、一人学びの時間を設定し、ペアでの伝え合い、全体での話し合いの活動へと進めている。

また今年度より、「探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業(図書館活用型)」の研究も始まり、学習の中では図書館資料、辞書、新聞等を活用し、言語活動の充実を図っていくようにしている。

本単元は、並行読書としていろいろな心がじいんとする本を読み、紹介する活動を取り入れていきたいと考えている。そこで単元に入るタイミングでそれらに関連する図書のコーナーを設け、興味・関心を持たせていきたい。心がじいんとする話をたくさん読み、紹介する活動を取り入れることで、楽しい本だけ

でなく、悲しいことやつらいことも心を感動させるということに気づかせたい。

また、普段の授業から新聞でまとめ、友だちに分かりやすく伝えることを学習してきている。そのため本単元でも新聞づくりを取り入れたいと考えている。心がじいんとした本を選び、あらすじ、心に残っていること、感想をカードに書き、絵や題名といっしょに一枚の新聞にまとめることで紹介新聞を作っていきたい。

6. 指導計画(全14時間 本時 7/14)

関：国語への関心・意欲・態度

読：読む能力

言：言語についての知識・理解・技能

次	時間	学習内容	評価			図書資料活用	
			関	読	言		評価規準(評価方法)
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「おまえ。うまそうだな」の読み聞かせを聞いて、心に強く残ったところを話し合う。 ・『心がじいんとする本を読んで友だちと家族を紹介しよう』という学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。 	◎	○		<ul style="list-style-type: none"> ・心に強く残ったところは人によって違うことに気づいている。[発表] ・想像を広げて読むことの楽しさに気づいて、全体の見通しがもっている。[観察] 	↑ 並行読書 関連図書
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「スーホの白い馬」を読んで、初発の感想を書く。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・「スーホの白い馬」を読み、強く心に残ったところが書けている。[ノート・発表] 	
第二次	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「スーホ」と「白馬」が出会った場面を読み、スーホの白馬に対する思いをスーホの行動や会話から想像して読み取る。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・スーホの行動や会話から小さな白馬を見つけた時のスーホの気持ちや様子を想像して読むことができる。[ノート・発表] 	
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・「白馬」がひつじをおおかみから守る場面を読み、スーホの白馬に対する思いをスーホの行動や会話から想像して読み取る。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・スーホの行動や会話から白馬がひつじをおおかみから守ってくれた時のスーホの気持ちや様子を想像して読むことができる。[ノート・発表] 	
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・「白馬」を「とのさま」にとり上げられる場面を読み、スーホの白馬に対する思いをスーホの行動や会話から想像して読み取る。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・とのさまの人物像をとらえている。[ノート・発表] ・白馬をとのさまに取り上げられたスーホの気持ちや様子を想像して読むことができる。[ノート・発表] 	↓

	6	・「白馬」が「とのさま」のところからにげ出す場面を読み、白馬の行動や会話からスーホを思う気持ちを想像して読み取る。		○	・とのさまから逃げて、ひどい傷を受けてもスーホに会いたいと思う白馬の気持ちや様子を想像して読むことができる。 〔ノート・発表〕	
	7 (本時)	・「白馬」が「スーホ」のところに帰ってきた場面を読み、スーホの白馬への思いをスーホの行動や会話から想像して読み取る。		○	・スーホの行動や会話から白馬が戻ってきたが死んでしまった時のスーホの気持ちや様子を想像して読むことができる。〔ノート・発表〕	
	8	・「スーホ」が馬頭琴を作る場面を読み、スーホの白馬への思いをスーホの行動や会話から想像して読み取る。		○	・スーホの行動や会話から、馬頭琴を作り、奏でる時のスーホの気持ちや様子を想像して読むことができる。〔ノート・発表〕	
	9 ・ 10	・あらすじの書き方を知り、「スーホと白い馬」のあらすじ、心に強く残ったところ、感想を書いた紹介新聞を作る。		○	・紹介文の中で、自分の好きなところが伝わるように、主語と述語に気をつけてあらすじや心に残ったところをまとめている。〔新聞・観察〕	
	11	・3～4人班で「スーホの白い馬」を紹介する。		○	・友だちに紹介新聞を分かりやすく伝えることができる。 〔発表〕	
	12 ・ 13	・読書記録の中から紹介する本を選び、好きなところが分かるようにあらすじをつかみ、紹介新聞を作る。	○		・選んだ本の中で、一番好きな場面を決め、分かりやすく紹介新聞を作っている。〔新聞・観察〕	
第三次	14	・3～4人班の中で自分の紹介カードを発表し、班の代表が全体の中で発表する。 ・単元の振り返りをする		◎ ○	・友だちにぜひ読んでもらいたい本の紹介ができる。〔発表〕 ・友達の発表を聞いて良いところを見つけ、感想を伝えている。(ワークシート・発表) ・単元で学んだことを振り返ることができている。〔ノート〕	▼

7. 本時の構想

(1) 目標

- ・白馬のことを思い願うスーホの気持ちを話し合い、スーホの白馬への思いに気づくことができる。

(2) 目標達成に向けて

- ・スーホの行動や会話の中で一番スーホの気持ちが表れているところを考えさせる。

(3) 本時の評価規準

- ・スーホの行動や会話からスーホの気持ちや様子を想像して読むことができる。〔ノート・発表〕

(4) 展開

学習過程	学習活動	○教師の働きかけ ◇評価(方法)	学習用語
振り返り	1. 前時までの学習を振り返る。	○前時の振り返りをもとに個人で振り返る時間を設定し2人に発表させる。 ○「白馬」が「とのさま」のところを逃げ出す場面を思い出させ、本時へとつなげる。	・比喩表現 ・言葉の組み立て ・時を表すことば
課題把握	2. 課題を知る。		
白馬が帰ってきた時のスーホの気持ちを考え、心がじいんとしたことを話し合おう			
自力解決	3. シラバスを確認する。	・スーホが白馬のことを思っているところを見つけて考えていくことを確認する。	
自力解決	4. 本文の中から、スーホが白馬のことを思っている文を抜き出し、読みとれるスーホの白馬への気持ちを書く。	○スーホの言ったこと、したことを抜き出すことを説明する ◇場面を想像して文を抜き出し自分の思いが書いている。(ノート)	言葉の組み立て ・はねおきて (はねる+おきる) ・つきささり
集団解決 (ペア学習)	5. 抜き出した文から想像できるスーホの気持ちを考え、話し合う。	○自分の考えと比べながら話し合いをさせ、感想を言うように伝える。 ○同じ意見の人や違う意見の人を確認しながら、なぜそう思うのかを本文にたちかえりながら考えさせる。	(つく+ささる) ・ながれおちて (ながれる+おちる)
(全体学習) 価値の共有	●スーホははねおきて、かけてきました。 →白馬に会えるところにいる。なぜかというときスーホが帰ってきたと思ったからです。 ●スーホははを食いしばりながら、白馬にささっている矢をぬきました。 →つらいと思います。なぜかというとき、大きなスーホが矢が刺さって絶対に死んでほしくないと思ったからです。 ●「白馬、僕の白馬、しなないでおくれ →かなしい気持ちになったと思います。なぜな	○前時までの場面や自分の生活と関わらせながら発表できている児童を評価する。 ◇抜き出した文の中から、スーホの気持ちが一番表れている文を選び自分の考えが言えている。(発表)	・ふき出す (ふく+だす) ・繰り返して強調する言葉 ・走って走って走り続けて… 比喩表現 ・たきのようにな

<p>まとめ</p> <p>振り返り</p>	<p>らば、白馬が死んだらスーホは一人ぼっちにな ってしまうと思ったからです。</p> <p>○選んだところの中でスーホの気持ちが一番表 れているところはどこですか？</p> <p>6. 学習のまとめをする。</p> <p>●ずっと大切に思っていた白馬にしないでくれ と言ったスーホのかなしい気持ちを考えると心 がじいんとした。</p> <p>7. 学習を振り返る。</p> <p>・学習の感想を書く。</p>	<p>○児童の言葉を使ってまとめをする。</p> <p>○友だちの意見をもとにまとめている。</p>	<p>がれおちていま す。</p>
------------------------	---	--	-----------------------

8. 板書計画

㊦

㊧

ずっと大切に思っていた白馬にしないでくれ
と言ったスーホのかなしい気持ちを考えると心
がじいんとした。

「白馬、ぼくの白馬、しないでくれ」

ひとりぼっちになき、かなしい。

はを食いしぼりながら、白馬にささった矢を抜いた。

ぜったいにしんぞほくくない

白馬が帰ってきたことに

スーホははねおきてかけてきました。

教科書の本文コピー

㊨

㊩

白馬が帰ってきた時のスーホの気持ちを考え、心がじい
んとしたところを話し合おう。

㊦

単元のめあて

心がじいんとしたことを、友だちや家ぞくにしようかいしよう！

スーホと白い馬

10. 授業後の研究協議より

《協議の柱》

本時のねらい 達成に向けて ○スーホが白馬のことを思っている文の中で、一番スーホの気持ちが表れているところを考えさせる。

《ワークショップの意見から》 ●課題 →改善策

●話し合い活動の充実について

- ・意見を出し合うだけで、練り合う場面がなかった（深まらなかった）
→発言リレーになるように教師の支援が必要であった。出し合う活動を止めて、深く話し合う場の設定が必要であった。
- ・児童が心情を表現できていなかった
→気持ちを表現する言葉を児童が身につけるような指導を行う。
→児童が、根拠・理由づけして発言する発言の仕方を身につけさせる常時指導をしていく。
- ・話し合いの時間が短かった
→意見を出し合った後の深める時間の確保できるよう、タイムマネジメントをする。

●教師の言語活動について

- ・指示や発言があいまいであった
→「言ったこと」「したこと」を抜き出す指示を明確にする。

●まとめ・振り返りのあり方

- ・まとめ
- ・振り返りに何を書いたらいいのかわからない児童がいた
→「分かったこと」「友達の見解から気づいたこと」など観点を決めて、書く経験を積み重ねていく。

《授業者の授業改善プラン》

- ・考えさせるポイントをしぼるようにする
- ・学習用語の掲示してとそれを授業で生かすようにする
- ・話し合い活動を積極的に取り入れる

《講師の助言》

●中部教育事務所 瀬戸指導主事

- ・タイムマネジメントができ、振り返りを実施できたのはよかった。
- ・低学年では、人物がしたことや言ったことを手掛かりに、スーホの気持ちを考え、物語を読んでいく。言葉を介して、読みを豊かにしていくということであるが、本時は、授業において学びに変化がなかったのではないか。学びを深めるためには、1時間の学習過程において、各過程の質の向上が必要になってくる。

読みを深めるには、「心情を読み取ることができる言葉を意図的に提示してそこからスーホの心情を考えさせる」「たくさん出た考えの中で、何を深めるのか論点を示す」ことがポイントとなる。

授業の終末では、児童が自分の中でスーホの心情の何が分かったかを落とし込んでいくことが重要である。

《授業者の授業から参観者が学んだこと》

- ・単元の学習の流れが、児童が把握できるよう、本時までの学習の流れが掲示物として残している。
- ・繰り返し同じ展開で学習することで、児童の発言が増えてきている。